

<県体協ニュース>

みんなで考えよう、神奈川における人間教育の場としての 部活指導のあり方と暴力行為根絶に向けた集い

平成25年7月5日（金）、神奈川県立神奈川総合高等学校多目的ホールにおいて「みんなで考えよう、神奈川における人間教育の場としての部活指導のあり方と暴力行為根絶に向けた集い」が開催されました。

この集いは、昨今のスポーツ指導等での暴力行為の問題を反映し、（公財）神奈川県体育協会の呼びかけにより、県下の中学校、高等学校の指導者や、（公財）神奈川県体育協会加盟団体等の指導者を対象として、神奈川県教育委員会、神奈川県高等学校体育連盟、神奈川県中学校体育連盟と共催で開催されました。

冒頭、山下会長が「スポーツを通じた人間教育における指導者のあるべき姿」の演題で基調講演を行い、暴力行為は勝利至上主義志向の指導者に多く見うけられる。スポーツを通じた人づくり、人間教育が大切である。欧米では暴力行為は永久追放になる等、国際柔道連盟の教育コーチング理事の時のエピソードなどを交え、指導者のあるべき姿について、402名の参加者を前に熱心に語りました。

基調講演の後、引地副会長をコーディネーターとして「人間教育の場としての部活指導のあり方と暴力行為根絶」をテーマに、山下会長、朝飛 大 氏（朝飛道場館長・柔道）近藤欽司 氏（北京オリンピック卓球女子監督）の3氏をパネリストとして、シンポジウムを行いました。

朝飛氏からは、「発想の転換」・「褒めて伸ばす」・「失敗を宝物に変える」を要旨とした、自身のユニークな指導方法について、また、近藤氏からは、「勝つ指導から育てる指導」との内容で、長年の部活指導や、ナショナルチームの監督経験から培われた、指導者としての心構えについて、それぞれ事例発表が行われました。

パネルディスカッションではコーディネーターの引地副会長が、山下会長の基調講演、朝飛氏、近藤氏の発表内容の論旨や共通点をまとめ、参加者との意見交換を行うなど、真剣な質疑応答が取り交わされ、最後にパネリストの3氏が感想を述べて終了となりました。

また、神奈川県教育委員会 田中保健体育課長から、「体罰の根絶に向けた取り組みについて」と題して、「体罰の実態把握に係る調査結果」と、神奈川県教育委員会が作成・配布する「体罰防止ガイドライン」の内容についての説明も行われました。

これからも「日常生活でもフェアプレー」をモットーに、加盟団体の皆様とともに「暴力行為根絶」・「いじめ防止」の啓発に取り組んでまいります。

